

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671500613		
法人名	社会福祉法人 白寿会		
事業所名	グループホームよしの		
所在地	徳島県阿波市吉野町柿原字二条146番地		
自己評価作成日	令和3年9月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和3年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは平屋建て3棟で成り立っている。敷地面積、建物共にゆったりとした環境の中、緑の囲まれた、四季折々の草花が咲き、利用者の目を楽しませてくれる。「和」を基調として話し合い信じ合い掛けあい温かい生活の場作りを理念に掲げ、一人ひとりが役割を持ち、お互いに支え合える環境作りを心掛けている。現在コロナ禍で外出制限がありますが、利用者にもいつもと変わらぬ生活をしていただければという行事の開催やレクリエーションの充実に努めている。その都度感染状況を確認しながら感染症対策を行い、面会方法をご家族にお伝えし、ご理解とご協力を頂いている。認知症サポーター養成講座を開催したり、オレンジカフェ(認知症カフェ)を開催、市内高校生や専門学生の介護実習の受け入れをしている。(現在感染症予防の為、休止中)地域における福祉の拠点となるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、田畑に囲まれたのどかな場所に位置している。同一法人の運営する他サービス施設が併設し、双方向に交流しつつ、緊急・災害時の協力体制を構築している。理念に“温かい生活の場づくり”掲げ、家庭的な環境のなかで、利用者の生活支援に努めている。事業所は実習生の受け入れやオレンジカフェの開催等を行い、地域福祉の拠点としての取り組みを行っている。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、状況に応じて、季節の花を園芸クラブの利用者と職員、地域ボランティアと一緒に植えるなどして、交流を続けている。居室の掃除や裁縫・簡単な調理を行う利用者も多く、その人のしたいことやできることを継続するために支援している。主治医や訪問看護との連携を密にとり、緊急時の対応や重度化に向けた勉強会を行うなど、利用者や家族等の安心につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価	実践状況	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての役割を理解し、独自の理念を掲げ、職員全体が認識できるように掲示を行い、毎日のミーティングで確認し共有することでケアに繋げている。	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。理念は事務所内に掲示したり、毎日のミーティングで理念について話しあったりして、事業所の目指す支援のあり方について立ち戻る機会を設けている。職員は、理念にそって温かい生活の場づくりに努めている。	次のステップに向けて期待したい内容
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加したり、オレンジカフェを定期的に開催したり、ボランティアの方々の訪問も定期的にあり交流を図っていたが、現在感染症予防の為、休止中。現在ではボランティアの方に、花壇にお花を植えに来てくださっている。	事業所では、散歩の際に近隣住民と挨拶を交わすなどして交流している。実習生の受入れや地域の清掃活動を行っている。感染症(コロナ等)の流行下においても、状況に応じて、ボランティアとともに花を植えるなどして、交流を続けている。感染症の終息後には、オレンジカフェを再開し、地域の福祉拠点としての取り組みを計画している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れを行い、人材育成に努めたり、地域住民の方に運営推進会議に参加して頂き、認知症の理解に努めている。また、キャラバンメイトを育成し、認知症サポーター研修を行っているが、現在感染症予防の為、休止中。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、感染症予防として職員で話し合い結果を、報告書と意見書を会議メンバーに郵送している。地域の情報や意見をいただきホームの運営やサービスの向上に活かしている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行下では、各委員に文書で事業所の取り組みを伝え、意見や提案等を得ている。得られた意見は、職員間で共有し、地域との協力関係構築やサービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、地域包括支援センター等、常に連携を持ち、分からないことがあれば、相談に乗って頂いたり情報交換を行い協力関係を築いている。	管理者は、定期的に市の担当窓口や地域包括支援センターを訪問し、事業所の取り組み等を伝え、情報交換や課題解決に向けた相談等を行っている。地域の福祉拠点として、行政とともに地域を支えていくための協働関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回の委員会の開催と、年に2回以上の事業所内研修で、職員の意識の統一を行っている。身体拘束を行うことでの弊害を理解し、自由に暮らせる開放的な環境作りを行っている。	事業所では、身体拘束に関する指針を作成している。定期的に、身体拘束廃止委員会や研修を開催し、職員間の理解を深めている。新人職員には個別に研修を行っている。全職員で、利用者一人ひとりの自由でその人らしい生活を支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回以上の事業所内研修で、職員の意識の統一を行っている。行うことでの弊害を理解し、自由に暮らせる開放的な環境作りを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方がいる為、職員も身近に感じている。活用の支援ができるように理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定時には十分な説明を口頭、文書を用いて行い、納得して頂いた上で、同意を頂くようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族とのコミュニケーションを十分取るようにし、要望や意見を気兼ねなく言ってもらえる関係作りに努めている。普段の会話の中で要望や意向を引き出すようなかかわりを心掛けている。	職員は、日ごろから家族等が意見や要望を伝えやすい関係づくりに努めている。感染症の流行下においても、定期的な電話連絡、おたよりで家族等の意見を引き出す工夫をしている。出された意見等は、職員間で検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職務の中で職員の意見に耳を傾けるよう心掛けている。出された意見や提案は、話し合いの場を持ち運営に活かしている。	管理者は、日ごろから職員の意見を聞く機会を設けている。定期的に個別面談を行っている。出された意見や提案は、職員間で話しあい、運営面に反映している。働きやすい環境づくりや職員の資格取得についても支援し、働く意欲の向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の個性を尊重すると共に、毎年の定期昇給や昇格に加え処遇改善手当や資格手当もあり、職員は向上心を持って働けるよう環境の整備に心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格、勤務年数に応じた研修会に参加し、個人に合わせたスキルアップに努めている。また月1回の勉強会を行い、職員全体のスキルアップも図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年認知症実践者研修、リーダー研修等外部研修会に参加し、他事業所と意見交換できる機会を作っている。また、法人内の事業所とも常に情報共有を行い、日頃のケアに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に生活状況を把握する為、本人家族とできるだけ会うようにしている。可能であれば、入居前に担当ケアマネジャーと訪問し、今後の生活の不安や希望を聴き、想いを受け止め、サービスの提供に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状況もよく聞き、要望を十分理解するよう努めている。家族の想いを日頃のケアに反映できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の希望や状況に柔軟に対応し、必要に応じて他職種にも相談し、状況に合ったサービスを提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人される人の関係ではなく、お互いの人権を尊重し、やりがいや生きがいを感じ、共に支え合い扶けあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から利用者の様子をこまめに伝えるようにしている。現状を知って頂き、家族と共に利用者を支えるための協力関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院、理美容院等、入居前からの馴染みのある所を利用している。知人の方との関係が途絶えぬようデイサービスへも行き来している。現在感染症予防の為、休止中。	事業所では、感染症の状況に応じて、短時間やガラス越しでの面会を受け入れている。電話や手紙等のやりとりも支援している。ユニット間での交流を継続し、友人を訪問したり、ベンチで会話をしたりして、馴染みの関係継続を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	以前からの知り合い、人間関係を把握し、ユニットや居室を検討している。気の合う者同士で過ごせる時間、場所の提供に努め、お互い声を掛け合い支え合える関係作りを支援している。		

自己	外部	項目	A棟		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気に掛け、事業所内や支援センターと連携して必要な情報を提供し、環境の変化にもスムーズに対応できるよう支援している。また、利用者間の友人関係を継続できるよう、気軽に立ち寄りやすい環境づくりに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活環境を把握し、希望や想いを汲み取れるよう傾聴に努めている。毎日の表情や会話の内容、行動も気に掛け、意向の把握に努めている。	職員は、日ごろから利用者とのふれあいや会話の時間を大切に、思いや意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者については、家族等や知人から生活歴や人となりを聞いたり、表情や仕草等から本人本位に検討したりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら本人、家族、関係者から情報を得るようにしている。入居後も利用者、家族との会話の中から生活の様子の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを大切に、サポートしている。職員は毎日の記録とミーティングで状態や有する力等、利用者の全体像の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を決め、本人、家族とより良い関係を保ち、意見、要望を伺い、希望する生活ができるよう介護計画作成に努めている。また、状態の変化に合わせて、随時見直しを行い、支援を行っている。	事業所では、利用者や家族等、関係者で話しあい、利用者の好きなことの継続や希望の生活を送るための介護計画を作成している。定期的なモニタリングや見直しのほか、状態の変化に応じて計画を見直し、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、その日の状態や利用者の言動等細かく記録し、全職員で共有し介護計画の見直しにも活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望や現状に即したサービスを提供している。状態に合わせ、柔軟な支援を行い、個々の満足度を高めるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの来訪や、地域の店舗への外出、散歩時には近隣の方が声を掛けて下さる等楽しく生活が送れるよう支援しているが、現在感染症予防の為、休止中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望する医療機関への受診を支援している。症状により、家族にも同行していただき診察結果を聞いて頂いている。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。感染症の流行下においては、職員が受診を支援している。週3回、訪問看護の来訪もある。医療機関と、夜間や緊急時の連携体制を構築し、利用者や家族等の安心につなげている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、週3回の来訪があり、健康管理を行って来ている。職員は、相談や助言を受け、状態変化や異常を早期発見できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者の支援方法に関する情報を医療機関に伝えている。また、状態確認の電話にて病院関係者と情報交換を行い、退院時にはカンファレンスに参加し、退院後も状況に応じた対応が速やかに実施できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する対応方針、看取り介護について入居時に説明を行い、意向を確認し、同意を頂いている。本人、家族の意向に沿い安心して終末期を過ごして頂けるよう、かかりつけ医と密な連携体制を取っている。職員の知識向上にも取り組んでいる。	事業所では、入居時の段階で、利用者や家族等に重度化や終末期における事業所の方針について説明し、意向を確認している。利用者の心身状況の変化に応じて、家族等に意向を確認し、主治医や訪問看護等と方針を共有している。看取り等に関する研修も行っている。利用者と家族等がともに過ごし、穏やかな終末期を迎えることができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に全職員が救急講習を受講しているが、感染症予防の為、施設内研修に切り替えている。また、緊急時のマニュアルを作成し、連絡体制も整え、緊急時落ち着いて対応できるように勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練は日中、夜間を想定し実施。水害、地震想定訓練も予定している。また、地域消防団の協力が得られる体制を整え、併設施設では食料や物品の備蓄し、緊急時に備えている。	年2回、日中と夜間を想定した避難訓練を実施している。併設する他サービス施設や地域の消防団とも協力体制を整備している。地震や水害等を想定し、排水掃除や土嚢、持ち出し品の準備等を行い、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			A棟			
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけを心がけ、尊厳ある行動がとれるよう努めている。利用者のプライバシーを損ねないよう細心の注意を払い、職員は自己決定を尊重した支援に努めている。	職員は、日ごろから利用者を尊重し、言葉づかいや呼びかけ等に配慮している。換気で居室を開放する時は、暖簾をするなど、プライバシーを損ねることのないよう工夫している。プライバシーに関する研修も実施している。利用者が自己決定しやすいような声かけや対応について、職員間で確認しつつ、支援に取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意思表示や自己決定できるよう声掛けを行い、希望の生活が送れるよう支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりがその人らしく生活できるよう、個々の生活スペースを保てるよう支援している。ご家族協力のもと、独居で生活されていたご自宅への外出支援も行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日自分で選んで更衣できるよう声掛けをしたり女性であればお化粧していた習慣を継続できるよう支援し、生き活きと生活できるよう努めている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決まったメニューだけでなく、食事やおやつを複式献立で選んでいただいて提供することがある。職員と一緒に調理や準備、片づけを行うようにしている。食事形態も利用者の身体状況に合わせ工夫している。	事業所では、炊飯や副菜の調理を行っている。野菜の下ごしらえ等、できることで利用者に調理に参加してもらっている。一緒におやつやケーキづくりを行ったり、月1回、ほのほの喫茶等を開催したりして、食事を楽しむことができるよう工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせ、飲み物の種類や形態を工夫したり、食事量を変更したり、栄養士による栄養バランスの取れた献立の作成や料理方法を変えたりし対応している。毎日の摂取量はチェックし体調の変化に気を付けている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けを行い、一人ひとりに合った用具を使用し、口腔ケアの支援を行っている。定期的に、提携歯科往診により、口腔内清潔保持に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			A棟 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄習慣や排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。排泄の失敗時には、周囲に気付かれないように速やかに対応する為、羞恥心に配慮している。	職員は、排泄チェックシートを用いて、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。職員間で話しあい、さりげない誘導やプライドを傷つけない対応等に配慮しつつ、排泄の自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者に応じ、十分な水分補給、食事摂取量の確保、また、医師との連携により便秘薬の服薬や自然排便を促すように適度な運動を心がけ、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週2回の入浴を基本とし、入浴を拒まれたり、体調により希望に添えない時は、日程を変更し本人の体調やタイミングを見計らい、入浴して頂いている。	事業所では、少なくとも週2回の入浴ができるよう支援している。入浴を拒む利用者には、思いに配慮しつつ、声掛けのタイミングや職員を変えるなどして、無理強ひすることなく入浴を支援している。利用者の好みのシャンプー等を使用したり、季節に応じてゆず湯等を行ったりして、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間を個々に合わせて支援したり、共有空間にソファを設置し、畳スペースもあり、自由にくつろぎ、休息をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴、服用薬を把握する為、一覧にしてファイルに綴っている。誤薬にも注意し、毎食時に名前、薬確認を行っている。薬変更時には、日誌に記録し、全職員が確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事で力を発揮できるよう役割を持ち生活されている。外食、外出等の支援も行っていたが、現在では感染症予防の為中止中。好みのレクリエーションに参加して頂いている。家族からも情報提供や協力を得られるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在感染症予防の為、買い物や外食外出は中止中。散髪は月二回来ていただいている。気晴らしが出来るよう外庭に出て過ごせるような工夫をし、施設内でのレクリエーションに力を入れ生き生きと過ごせるように努めている。	事業所では、気候の良い日に近隣の散歩に出かけている。日ごろから菜園の手入れをしたり、ベンチで過ごしたりして、外気に触れる機会を設けている。事業所内でも体操や歌、貼り絵など、レクリエーションの機会を増やし、生き生きと過ごすことができるよう工夫している。	



自己	外部	項目	A棟		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持を希望される方は、家族の了承を得、少額が入った財布を持たせ、移動販売や自動販売機で好みの物を購入している。(感染症予防の為、休止中、時期をみて再開予定。)金銭を持つことで安心感を持たれている利用者の方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用することは可能であり、困難な方には職員がサポートし希望に沿えるようにしている。携帯電話を所持している方もおり、以前からの友人との電話やご家族への年賀状等手紙のやりとりの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる飾りつけをしたり、利用者作成の展示している。ホール、廊下には天窓があり、明るい日差しが入り込む空間となっている。	共用空間は、天窓から日差しが入り、明るく広々としている。行事の写真や利用者の作品等を飾り、季節感を大切にしている。時間を決めて換気を行うなど、感染症対策にも配慮し、安心・安全な共用空間づくりに取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファ、戸外にもベンチを設置したり、畳には冬場になると炬燵を用意し、くつろげる空間作りを心がけている。思い思いに過ごすことができる場の提供に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、テーブル、家具等好みに合わせ配置し、居心地よく過ごせるよう工夫している。家族と相談し、馴染みの品を持ち込んでいただくようにしている。	居室は、大きな窓があり、明るい。仏壇や冷蔵庫等、利用者の馴染みの家具や家族の写真、作品等を持ち込んでもらっている。居室の入口には暖簾をかけるなど、プライバシーにも配慮し、その人らしく、居心地の良い居室づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間には、利用者がわかりやすいよう配慮した表示をしている。安全面では、居室に衝撃緩和マットを使用し、安全確保に努めている。		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスとしての役割を理解し、独自の理念を掲げ、職員全体が認識できるように掲示を行い、毎日のミーティングで確認し共有することでケアに繋げている。	地域密着型サービスとしての役割を理解し、独自の理念を掲げ、職員全体が認識できるように掲示を行い、毎日のミーティングで確認し共有することでケアに繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加したり、オレンジカフェを定期的に開催したり、ボランティアの方々の訪問も定期的にあり交流を図っていたが、現在感染症予防の為、休止中。現在ではボランティアの方に、花壇にお花を植えに来てくださっている。	地域のイベントに参加したり、オレンジカフェを定期的に開催したり、ボランティアの方々の訪問も定期的にあり交流を図っていたが、現在感染症予防の為、休止中。現在ではボランティアの方に、花壇にお花を植えに来てくださっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れを行い、人材育成に努めたり、地域住民の方に運営推進会議に参加して頂き、認知症の理解に努めている。また、キャラバンメイトを育成し、認知症サポーター研修を行っているが、現在感染症予防の為、休止中。	実習生の受け入れを行い、人材育成に努めたり、地域住民の方に運営推進会議に参加して頂き、認知症の理解に努めている。また、キャラバンメイトを育成し、認知症サポーター研修を行っているが、現在感染症予防の為、休止中。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在、感染症予防として職員で話し合い結果を、報告書と意見書を会議メンバーに郵送している。地域の情報や意見をいただきホームの運営やサービスの向上に活かしている。	現在、感染症予防として職員で話し合い結果を、報告書と意見書を会議メンバーに郵送している。地域の情報や意見をいただきホームの運営やサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課、地域包括支援センター等、常に連携を持ち、分からないことがあれば、相談に乗って頂いたり情報交換を行い協力関係を築いている。	介護保険課、地域包括支援センター等、常に連携を持ち、分からないことがあれば、相談に乗って頂いたり情報交換を行い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回の委員会の開催と、年に2回以上の事業所内研修で、職員の意識の統一を行っている。身体拘束を行うことでの弊害を理解し、自由に暮らせる開放的な環境作りを行っている。	3か月に1回の委員会の開催と、年に2回以上の事業所内研修で、職員の意識の統一を行っている。身体拘束を行うことでの弊害を理解し、自由に暮らせる開放的な環境作りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回以上の事業所内研修で、職員の意識の統一を行っている。行うことでの弊害を理解し、自由に暮らせる開放的な環境作りを行っている。	年に2回以上の事業所内研修で、職員の意識の統一を行っている。行うことでの弊害を理解し、自由に暮らせる開放的な環境作りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方がいる為、職員も身近に感じている。活用の支援ができるように理解に努めている。	制度を利用されている方がいる為、職員も身近に感じている。活用の支援ができるように理解に努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時、改定時には十分な説明を口頭、文書を用いて行い、納得して頂いた上で、同意を頂くようにしている。	契約時、解約時、改定時には十分な説明を口頭、文書を用いて行い、納得して頂いた上で、同意を頂くようにしている。	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族とのコミュニケーションを十分取るようにし、要望や意見を気兼ねなく言ってもらえる関係作りに努めている。普段の会話の中で要望や意向を引き出すようなかわりを心掛けている。	利用者、家族とのコミュニケーションを十分取るようにし、要望や意見を気兼ねなく言ってもらえる関係作りに努めている。普段の会話の中で要望や意向を引き出すようなかわりを心掛けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職務の中で職員の意見に耳を傾けるよう心掛けている。出された意見や提案は、話し合いの場を持ち運営に活かしている。	職務の中で職員の意見に耳を傾けるよう心掛けている。出された意見や提案は、話し合いの場を持ち運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の個性を尊重すると共に、毎年の定期昇給や昇格に加え処遇改善手当や資格手当もあり、職員は向上心を持って働けるよう環境の整備に心掛けている。	個々の個性を尊重すると共に、毎年の定期昇給や昇格に加え処遇改善手当や資格手当もあり、職員は向上心を持って働けるよう環境の整備に心掛けている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格、勤務年数に応じた研修会に参加し、個人に合わせたスキルアップに努めている。また月1回の勉強会を行い、職員全体のスキルアップも図っている。	資格、勤務年数に応じた研修会に参加し、個人に合わせたスキルアップに努めている。また月1回の勉強会を行い、職員全体のスキルアップも図っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年認知症実践者研修、リーダー研修等外部研修会に参加し、他事業所と意見交換できる機会を作っている。また、法人内の事業所とも常に情報共有を行い、日頃のケアに活かしている。	毎年認知症実践者研修、リーダー研修等外部研修会に参加し、他事業所と意見交換できる機会を作っている。また、法人内の事業所とも常に情報共有を行い、日頃のケアに活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に生活状況を把握する為、本人家族とできるだけ会うようにしている。可能であれば、入居前に担当ケアマネジャーと訪問し、今後の生活の不安や希望を聴き、想いを受け止め、サービスの提供に努めている。	事前に生活状況を把握する為、本人家族とできるだけ会うようにしている。可能であれば、入居前に担当ケアマネジャーと訪問し、今後の生活の不安や希望を聴き、想いを受け止め、サービスの提供に努めている。	
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状況もよく聞き、要望を十分理解するよう努めている。家族の想いを日頃のケアに反映できるようにしている。	家族の状況もよく聞き、要望を十分理解するよう努めている。家族の想いを日頃のケアに反映できるようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の希望や状況に柔軟に対応し、必要に応じて他職種にも相談し、状況に合ったサービスを提供できるよう努めている。	利用者、家族の希望や状況に柔軟に対応し、必要に応じて他職種にも相談し、状況に合ったサービスを提供できるよう努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する人される人の関係ではなく、お互いの人権を尊重し、やりがいや生きがいを感じ、共に支え合い助けあう関係を築いている。	介護する人される人の関係ではなく、お互いの人権を尊重し、やりがいや生きがいを感じ、共に支え合い助けあう関係を築いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃から利用者の様子をこまめに伝えるようにしている。現状を知って頂き、家族と共に利用者を支えるための協力関係を築いている。	日頃から利用者の様子をこまめに伝えるようにしている。現状を知って頂き、家族と共に利用者を支えるための協力関係を築いている。	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院、理美容院等、入居前からの馴染みのある所を利用している。知人の方との関係が途絶えぬようデイサービスへも行き来している。現在感染症予防の為、休止中。	病院、理美容院等、入居前からの馴染みのある所を利用している。知人の方との関係が途絶えぬようデイサービスへも行き来している。現在感染症予防の為、休止中。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	以前からの知り合い、人間関係を把握し、ユニットや居室を検討している。気の合う者同士で過ごせる時間、場所の提供に努め、お互い声を掛け合い支え合える関係作りを支援している。	以前からの知り合い、人間関係を把握し、ユニットや居室を検討している。気の合う者同士で過ごせる時間、場所の提供に努め、お互い声を掛け合い支え合える関係作りを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も気に掛け、事業所内や支援センターと連携して必要な情報を提供し、環境の変化にもスムーズに対応できるよう支援している。また、利用者間の友人関係を継続できるよう、気軽に立ち寄りやすい環境づくりに努めている。	退去後も気に掛け、事業所内や支援センターと連携して必要な情報を提供し、環境の変化にもスムーズに対応できるよう支援している。また、利用者間の友人関係を継続できるよう、気軽に立ち寄りやすい環境づくりに努めている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の生活環境を把握し、希望や想いを汲み取れるよう傾聴に努めている。毎日の表情や会話の内容、行動も気に掛け、意向の把握に努めている。	入居前の生活環境を把握し、希望や想いを汲み取れるよう傾聴に努めている。毎日の表情や会話の内容、行動も気に掛け、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら本人、家族、関係者から情報を得るようにしている。入居後も利用者、家族との会話の中から生活の様子の把握に努めている。	プライバシーに配慮しながら本人、家族、関係者から情報を得るようにしている。入居後も利用者、家族との会話の中から生活の様子の把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを大切にし、サポートしている。職員は毎日の記録とミーティングで状態や有する力等、利用者の全体像の把握に努めている。	個々の生活リズムを大切にし、サポートしている。職員は毎日の記録とミーティングで状態や有する力等、利用者の全体像の把握に努めている。	
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を決め、本人、家族とより良い関係を保ち、意見、要望を伺い、希望する生活ができるよう介護計画作成に努めている。また、状態の変化に合わせて、随時見直しを行い、支援を行っている。	担当職員を決め、本人、家族とより良い関係を保ち、意見、要望を伺い、希望する生活ができるよう介護計画作成に努めている。また、状態の変化に合わせて、随時見直しを行い、支援を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録には、その日の状態や利用者の言動等細かく記録し、全職員で共有し介護計画の見直しにも活用している。	個別記録には、その日の状態や利用者の言動等細かく記録し、全職員で共有し介護計画の見直しにも活用している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の希望や現状に即したサービスを提供している。状態に合わせ、柔軟な支援を行い、個々の満足を高めるように努めている。	本人、家族の希望や現状に即したサービスを提供している。状態に合わせ、柔軟な支援を行い、個々の満足を高めるように努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの来訪や、地域の店舗への外出、散歩時には近隣の方が声を掛けて下さる等楽しく生活が送れるよう支援しているが、現在感染症予防の為、休止中。	地域ボランティアの来訪や、地域の店舗への外出、散歩時には近隣の方が声を掛けて下さる等楽しく生活が送れるよう支援しているが、現在感染症予防の為、休止中。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族の希望する医療機関への受診を支援している。症状により、家族にも同行していただき診察結果を聞いて頂いている。	利用者、家族の希望する医療機関への受診を支援している。症状により、家族にも同行していただき診察結果を聞いて頂いている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、週3回の来訪があり、健康管理を行って頂いている。職員は、相談や助言を受け、状態変化や異常を早期発見できるように努めている。	訪問看護ステーションと契約し、週3回の来訪があり、健康管理を行って頂いている。職員は、相談や助言を受け、状態変化や異常を早期発見できるように努めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、利用者の支援方法に関する情報を医療機関に伝えている。また、状態確認の電話にて病院関係者と情報交換を行い、退院時にはカンファレンスに参加し、退院後も状況に応じた対応が速やかに実施できるよう努めている。	入院時には、利用者の支援方法に関する情報を医療機関に伝えている。また、状態確認の電話にて病院関係者と情報交換を行い、退院時にはカンファレンスに参加し、退院後も状況に応じた対応が速やかに実施できるよう努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に対する対応方針、看取り介護について入居時に説明を行い、意向を確認し、同意を頂いている。本人、家族の意向に沿い安心して終末期を過ごして頂けるよう、かかりつけ医と密な連携体制を取っている。職員の知識向上にも取り組んでいる。	終末期に対する対応方針、看取り介護について入居時に説明を行い、意向を確認し、同意を頂いている。本人、家族の意向に沿い安心して終末期を過ごして頂けるよう、かかりつけ医と密な連携体制を取っている。職員の知識向上にも取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に全職員が救急講習を受講しているが、感染症予防の為、施設内研修に切り替えている。また、緊急時のマニュアルを作成し、連絡体制も整え、緊急時落ち着いて対応できるように勉強している。	定期的に全職員が救急講習を受講しているが、感染症予防の為、施設内研修に切り替えている。また、緊急時のマニュアルを作成し、連絡体制も整え、緊急時落ち着いて対応できるように勉強している。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防避難訓練は日中、夜間を想定し実施。水害、地震想定も予定している。また、地域消防団の協力が得られる体制を整え、併設施設では食料や物品の備蓄し、緊急時に備えている。	年2回の消防避難訓練は日中、夜間を想定し実施。水害、地震想定も予定している。また、地域消防団の協力が得られる体制を整え、併設施設では食料や物品の備蓄し、緊急時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	丁寧な言葉かけを心がけ、尊厳ある行動がとれるよう努めている。利用者のプライバシーを損なわないよう細心の注意を払い、職員は自己決定を尊重した支援に努めている。	丁寧な言葉かけを心がけ、尊厳ある行動がとれるよう努めている。利用者のプライバシーを損なわないよう細心の注意を払い、職員は自己決定を尊重した支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が意思表示や自己決定できるよう声掛けを行い、希望の生活が送れるよう支援している。	利用者が意思表示や自己決定できるよう声掛けを行い、希望の生活が送れるよう支援している。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりがその人らしく生活できるよう、個々の生活スペースを保てるよう支援している。ご家族協力のもと、独居で生活されていたご自宅への外出支援も行っている。	利用者一人ひとりがその人らしく生活できるよう、個々の生活スペースを保てるよう支援している。ご家族協力のもと、独居で生活されていたご自宅への外出支援も行っている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日自分で選んで更衣できるよう声掛けをしたり女性であればお化粧していた習慣を継続できるよう支援し、生き活きと生活できるよう努めている。	毎日自分で選んで更衣できるよう声掛けをしたり女性であればお化粧していた習慣を継続できるよう支援し、生き活きと生活できるよう努めている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決まったメニューだけでなく、食事やおやつを複式献立で選んでいただいで提供することがある。職員と一緒に調理や準備、片づけを行うようにしている。食事形態も利用者の身体状況に合わせて工夫している。	決まったメニューだけでなく、食事やおやつを複式献立で選んでいただいで提供することがある。職員と一緒に調理や準備、片づけを行うようにしている。食事形態も利用者の身体状況に合わせて工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の状態に合わせて、飲み物の種類や形態を工夫したり、食事量を変更したり、栄養士による栄養バランスの取れた献立の作成や料理方法を変えたりし対応している。毎日の摂取量はチェックし体調の変化に気を付けている。	利用者の状態に合わせて、飲み物の種類や形態を工夫したり、食事量を変更したり、栄養士による栄養バランスの取れた献立の作成や料理方法を変えたりし対応している。毎日の摂取量はチェックし体調の変化に気を付けている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けを行い、一人ひとりに合った用具を使用し、口腔ケアの支援を行っている。定期的に、提携歯科往診により、口腔内清潔保持に努めている。	毎食後の声掛けを行い、一人ひとりに合った用具を使用し、口腔ケアの支援を行っている。定期的に、提携歯科往診により、口腔内清潔保持に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄習慣や排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。排泄の失敗時には、周囲に気付かれないように速やかに対応する為、羞恥心に配慮している。	個々の排泄習慣や排泄リズムを把握し、トイレ誘導を行い、トイレでの排泄を支援している。排泄の失敗時には、周囲に気付かれないように速やかに対応する為、羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者に応じ、十分な水分補給、食事摂取量の確保、また、医師との連携により便秘薬の服薬や自然排便を促すように適度な運動を心がけ、便秘予防に努めている。	利用者に応じ、十分な水分補給、食事摂取量の確保、また、医師との連携により便秘薬の服薬や自然排便を促すように適度な運動を心がけ、便秘予防に努めている。	
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	最低週二回の入浴を基本とし、入浴を拒まれたり、体調により希望に添えない時は、日程を変更し本人の体調やタイミングを見計らい、入浴して頂いている。	最低週二回の入浴を基本とし、入浴を拒まれたり、体調により希望に添えない時は、日程を変更し本人の体調やタイミングを見計らい、入浴して頂いている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝時間を個々に合わせて支援したり、共有空間にソファを設置し、畳スペースもあり、自由にくつろぎ、休息をとっている。	起床、就寝時間を個々に合わせて支援したり、共有空間にソファを設置し、畳スペースもあり、自由にくつろぎ、休息をとっている。	
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	既往歴、服用薬を把握する為、一覧にしてファイルに綴っている。誤薬にも注意し、毎食時に名前、薬確認を行っている。薬変更時には、日誌に記録し、全職員が確認している。	既往歴、服用薬を把握する為、一覧にしてファイルに綴っている。誤薬にも注意し、毎食時に名前、薬確認を行っている。薬変更時には、日誌に記録し、全職員が確認している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事で力を発揮できるよう役割を持ち生活されている。外食、外出等の支援も行っていたが、現在では感染症予防の為中止中。好みのレクリエーションに参加して頂いている。家族からも情報提供や協力を得られるよう努めている。	得意な事で力を発揮できるよう役割を持ち生活されている。外食、外出等の支援も行っていたが、現在では感染症予防の為中止中。好みのレクリエーションに参加して頂いている。家族からも情報提供や協力を得られるよう努めている。	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在感染症予防の為、買い物や外食外出は中止中。散髪は月二回来ていただいている。気晴らしが出来るよう外庭に出て過ごせるような工夫をし、施設内でのレクリエーションに力を入れ生き生きと過ごせるように努めている。	現在感染症予防の為、買い物や外食外出は中止中。散髪は月二回来ていただいている。気晴らしが出来るよう外庭に出て過ごせるような工夫をし、施設内でのレクリエーションに力を入れ生き生きと過ごせるように努めている。	



自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			B棟 実践状況	C棟 実践状況	実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持を希望される方は、家族の了承を得、少額が入った財布を持たれ、移動販売や自動販売機で好みの物を購入している。(感染症予防の為、休止中、時期をみて再開予定。)金銭を持つことで安心感を持たれている利用者の方もいる。	金銭の所持を希望される方は、家族の了承を得、少額が入った財布を持たれ、移動販売や自動販売機で好みの物を購入している。(感染症予防の為、休止中、時期をみて再開予定。)金銭を持つことで安心感を持たれている利用者の方もいる。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使用することは可能であり、困難な方には職員がサポートし希望に沿えるようにしている。携帯電話を所持している方もおり、以前からの友人との電話やご家族への年賀状等手紙のやりとりの支援を行っている。	電話を使用することは可能であり、困難な方には職員がサポートし希望に沿えるようにしている。携帯電話を所持している方もおり、以前からの友人との電話やご家族への年賀状のやりとりの支援を行っている。	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられる飾りつけをしたり、利用者作成の展示している。ホール、廊下には天窓があり、明るい日差しが入り込む空間となっている。	季節を感じられる飾りつけをしたり、利用者作成の展示している。ホール、廊下には天窓があり、明るい日差しが入り込む空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファ、戸外にもベンチを設置したり、畳には冬場になると炬燵を用意し、くつろげる空間作りを心がけている。思い思いに過ごすことができる場の提供に努めている。	ホールにソファ、戸外にもベンチを設置したり、畳には冬場になると炬燵を用意し、くつろげる空間作りを心がけている。思い思いに過ごすことができる場の提供に努めている。	
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ、テーブル、家具等好みに合わせ配置し、居心地よく過ごせるよう工夫している。家族と相談し、馴染みの品を持ち込んでいただくようにしている。	テレビ、テーブル、家具等好みに合わせ配置し、居心地よく過ごせるよう工夫している。家族と相談し、馴染みの品を持ち込んでいただくようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間には、利用者がわかりやすいよう配慮した表示をしている。安全面では、居室に衝撃緩和マットを使用し、安全確保に努めている。	共有空間には、利用者がわかりやすいよう配慮した表示をしている。安全面では、居室に衝撃緩和マットを使用し、安全確保に努めている。	